

株主のみなさまへ

# 株式会社 安川電機 第101期事業ご報告

2016年3月21日 ▶ 2017年3月20日

(証券コード：6506)

## Contents

株主のみなさまへ	1
特集：「Dash 25」経過報告	3
事業案内	4
セグメント別の概況	5
トピックス	10
業績の推移	12
株式の状況	13
会社の概要	14

To our shareholders

株主のみなさまへ



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度の当社業績につきましては、急激な円高進行の影響により前年度に対して減収減益となりましたが、中国を中心としたスマートフォン関連市場の急激な立ち上がりにより、利益は期初計画を上回る結果となりました。

2017年度の当社グループを取り巻く経営環境は、産業の高度化が進む中、世界中の製造業が生産の自動化投資を加速させるなど、良好な状況にあります。特に成長が著しい中国では、スマートフォンをはじめとする3C（コンピュータ・家電製品・通信機器）市場において設備投資拡大の動きがみられます。

このような中、前年度からスタートした中期経営計画『Dash 25』の達成を目指し、2017年度は開発力・生産力・販売力の継続的進化および新規事業の展開加速を具体的なテーマとし、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 小笠原浩

## ■ 決算の概要 (連結)

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、国内外ともに景気は総じて緩やかに拡大しました。米国では新政権発足に伴う政策の不確実性が増したものの、雇用・所得環境の改善により個人消費は拡大しました。欧州では英国のEU離脱問題により懸念された影響が限定的だったことに加え、自動車を中心とした設備投資の回復などにより景気は緩やかな回復基調となりました。中国では生産設備の高度化・自動化などの加速により需要は好調に推移しました。国内については、為替が円高で推移したものの、中国をはじめとする海外からの需要などに支えられ、景気全般については緩やかな回復傾向となりました。

このような状況下、当社グループは新製品の積極投入による競争力・採算性の向上を目指すとともに、環境・エネルギー分野をはじめとする新規事業領域の開拓により、事業の拡大を図ってまいりましたが、第3四半期までの

円高進行が業績へ影響を与える状況となりました。

この結果、当期の当社グループの業績は、売上高3,948億83百万円(前期比4.0%減)、営業利益304億9百万円(同17.2%減)、経常利益319億63百万円(同10.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益203億97百万円(同8.8%減)となり、前期比で減収減益となりました。

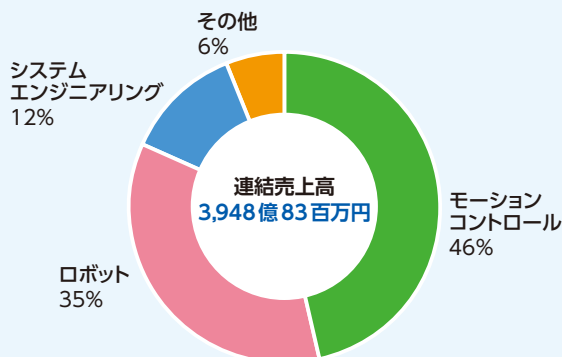
### ● 売上高



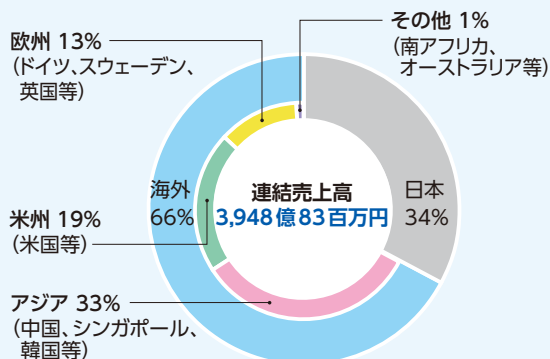
### ● 営業利益



### ● 売上高のセグメント別内訳



### ● 売上高の地域別内訳

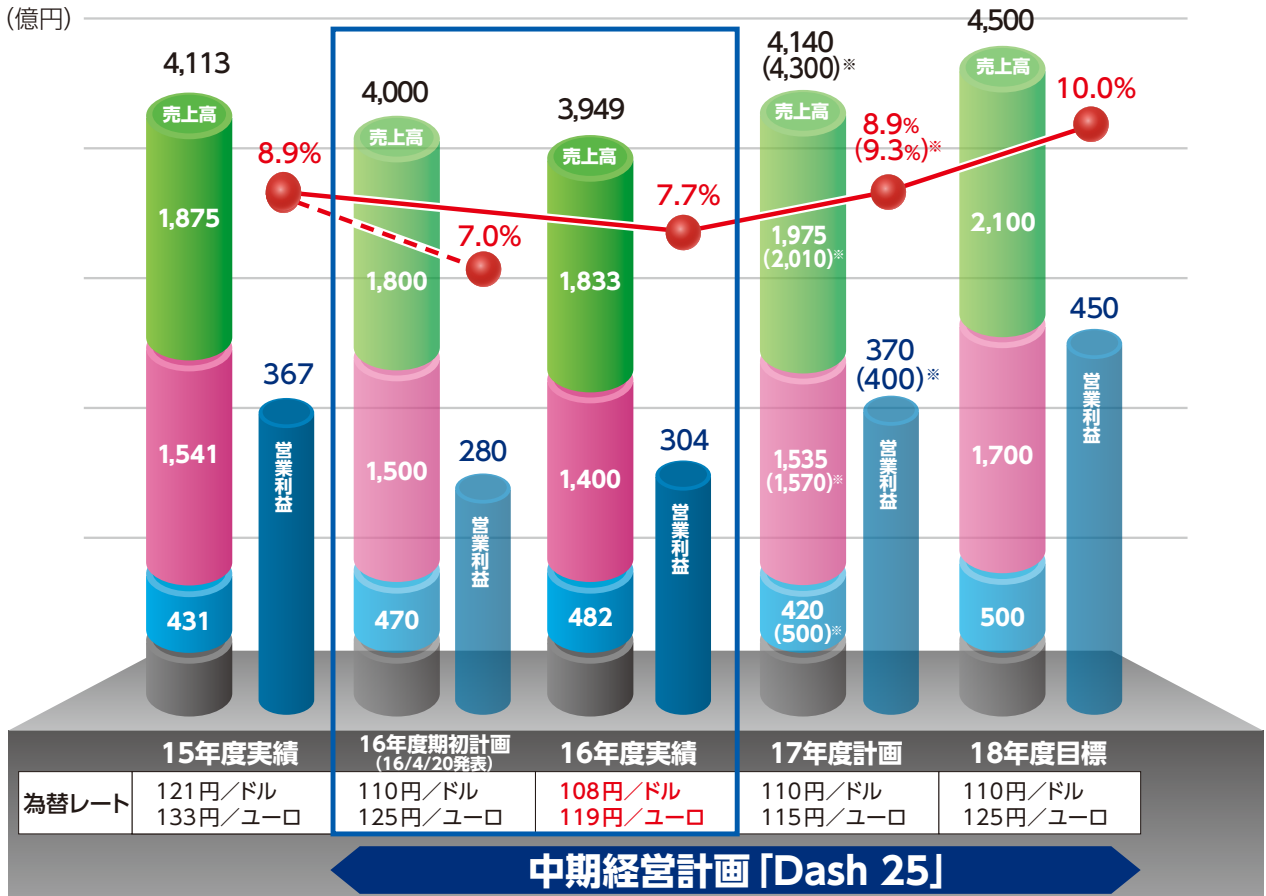


## 中期経営計画「Dash 25」経過報告～進捗と課題～

中期経営計画「Dash 25」の1年目にあたる2016年度の進捗状況は、期初計画(2016年4月20日発表)に対し、為替レートが想定より円高に推移した中で、売上高は僅かながらの未達となりましたが、営業利益(率)は計画を上回る結果となりました。

「Dash 25」の2年目となる2017年度の計画については、中国を中心とした旺盛な需要を受け、「Dash 25」の最終年度(2018年度)目標に大きく近づく見込みです。

※2017年度計画の( )内は、決算期が従前どおり(平成29年3月21日～平成30年3月20日)の場合の連結業績予想を参考値として表記しています。  
(決算期変更についてはP13をご覧ください。)



[注] 表記: ● = モーションコントロール、● = ロボット、● = システムエンジニアリング、● = その他    - - - 営業利益率

## 事業案内

当社は1915年の創立以来、「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」という経営理念に基づき、常に時代の主力産業を支え続けてきました。現在は、「モーションコントロール」「ロボット」「システムエンジニアリング」の基幹事業を軸に、世界最高水準の技術力とノウハウを駆使し、産業と社会の発展に貢献しています。

高性能・高生産性の機械システムを構築する

### モーションコントロール ▶ P.5

**No.1 ACサーボドライブ世界シェアNo.1!**  
累計出荷台数\*1,500万台突破(2017年4月)\*:ACサーボモータ

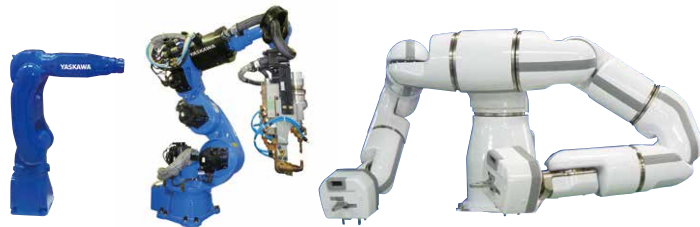
**No.1 インバータ世界シェアNo.1!**  
累計出荷台数2,300万台突破(2016年)



自動化により産業の生産性向上に貢献する

### ロボット ▶ P.7

**産業用ロボット世界シェアトップクラス!**  
累計出荷台数36万台突破(2016年)



豊かな暮らしと社会を支える

### システムエンジニアリング ▶ P.9

**大型高炉プラント用システム電機品**  
**世界シェアトップクラス!**

国内においてはシェア100% (2015年)

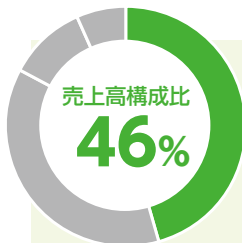


## セグメント別の概況

## ■ モーションコントロール

世界のニーズにこたえる  
モーションコントロール事業

当セグメントには、ACサーボモータ、コントローラ、インバータなどの製品があります。ACサーボモータ、コントローラは電子部品や半導体部品などの高い精度が求められる生産機器に組み込まれています。インバータはエアコン、クレーン、エレベータなどに利用され、きめ細かなモータ制御によって、省エネにも大きく貢献しています。また、再生可能エネルギーの利用に不可欠な太陽光発電用パワーコンディショナにも取り組んでいます。



## 事業の業績

ACサーボモータ・コントローラにおいては、中国を中心にスマートフォン関連での旺盛な設備投資需要が継続し、売上は好調に推移しました。また、主力製品「Σ-7シリーズ」への切り替え加速や中国における現地生産効果などにより、収益性は前期比で大幅に改善しました。インバータにおいては、米国におけるオイル・ガス関連および国内の太陽光発電用パワーコンディショナ関連の需要低迷により売上は低調に推移しました。セグメント全体では、円高による為替影響などにより、前期比で売上高、営業利益ともに減少いたしました。

売上高

**1,832**億94百万円前期比 **2.3%**減

営業利益

**207**億51百万円前期比 **7.4%**減

## 主要製品

- ACサーボモータ
- 工作機械用AC主軸モータ
- リニアモータ
- 各種モータ制御装置
- マシンコントローラ
- ビジョンシステム
- 汎用インバータ
- 太陽光発電用パワーコンディショナ
- EV用モータドライブシステム
- 電源回生コンバータ
- マトリクスコンバータ

## 新製品 Σ-7シリーズのラインアップ拡充

### バッテリーレス絶対値エンコーダ※ 搭載サーボモータを発売

サーボモータの重要な構成部品であるエンコーダは内蔵バッテリーによる寿命があり、この交換を行う保守作業が必要でした。本製品ではエンコーダに必要な電力を自己発電によって供給することを成功し、本体の電源がOFFの状態であっても、基準からのモータの回転量を記憶することができます。これにより配線の簡素化やメンテナンスフリーを実現し、ユーザビリティ(お客様の使い勝手)を向上いたしました。



バッテリーレス絶対値エンコーダ搭載  
サーボモータ

※モータの回転方向や回転量、  
角度を検出する電子部品

## 新製品 リアルタイムOS対応で、より高速な処理を実現

### PCボードタイプコントローラMP3110 MP3110Mを発売

近年のものづくりの新たなコンセプトとしてインダストリ4.0が注目を集めており、ビッグデータ処理のため高速PCを利用したシステムのニーズが高まっています。本製品はリアルタイムOSに対応しており、I/Oボードや画像ボード等の他デバイスと同期させたモーション制御が可能です。またソフトモーションアーキテクチャの採用により、PCを使用したさまざまなシステムのニーズにお応えします。



MP3110



MP3110M

## 新製品

産業用汎用インバータGA700シリーズを対象としたサービスを新たに開始

### クラウドサービス「YASKAWA Drive Cloud」をスタート



産業用汎用インバータはお客様のシステムをコストダウンするための多機能化が進んでいます。一方で機能の多さから、調整や設定が複雑という課題がありました。これらの課題に対して、スマートフォンやクラウドサービスを活用し、操作性・利便性を向上させることで、初めてインバータを扱うお客様にも安心してお使いいただけるようになりました。

#### トラブルシュート情報をスマホで確認



無線アクセス  
Bluetooth®



パラメータ保存

パラメータ読込



クラウド

#### トラブル時のインバータ復旧が簡単

## セグメント別の概況

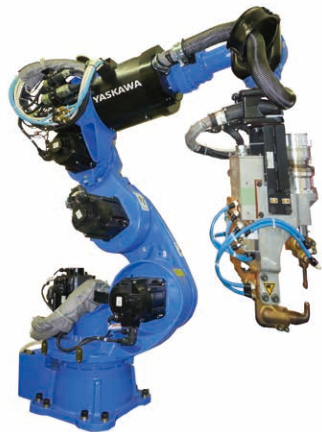
## ■ ロボット

新たな挑戦を続け  
進化するロボット

当セグメントを構成する産業用ロボットは、自動車関連市場を中心に、さまざまな産業分野において溶接、塗装、組立、搬送などの自動化に貢献しています。当社はロボットを構成する機械部品やコントローラなどを自社開発しており、高度化するお客様の要求にきめ細かく対応していくことで、トップメーカーの地位を築いています。



6軸アーク溶接ロボット



7軸スポット溶接ロボット

売上高構成比

35%

## 事業の業績

溶接・塗装ロボットなどの主力製品を展開する自動車関連向けの売上は、欧州・中国を中心に堅調に推移しました。自動車関連以外の一般産業分野向けの売上は、中国を中心に拡大しました。また、韓国 Doolim Robotics 社の株式を一部取得し、塗装・シーリングロボットシステム分野の強化を図りました。業績面については、円高による為替影響などを受け、売上高・営業利益はともに前期比で減少いたしました。

売上高

1,399億93百万円

前期比 9.1%減

営業利益

102億53百万円

前期比 33.0%減

## 主要製品

- アーク溶接ロボット
- スポット溶接ロボット
- 塗装ロボット
- ハンドリングロボット
- シーリング・切断ロボット
- バリ取り・研磨ロボット
- 半導体・液晶製造装置用クリーン・真空搬送ロボット
- ロボット周辺機器
- ロボット応用FAシステム
- バイオメディカル用途対応ロボット



## 新製品

医薬、医療、飲料など高度な衛生管理が求められる分野の自動化に最適なロボット

### バイオメディカル用途向けロボット MOTOMAN-MH5BM を発売

創薬・医薬品業界における研究・開発の実験などの分野では、衛生管理が徹底されたバイオリジカルクリーン環境<sup>※</sup>への対応が求められています。

当社はこのような高度な衛生管理が求められる分野に最適な6軸垂直多関節ロボットの販売を開始しました。清掃性に優れる凹凸のないボディ形状を採用したほか、塗料など表面処理を刷新したことで、拭き上げ・ガス噴霧・ミスト噴霧での過酸化水素除染にも対応しています。

※浮遊微粒子や微生物の個数管理が必要な衛生的環境

#### 主な用途

- 創薬研究
  - 医薬品製造
  - 医療機器製造
  - 医療・再生医療
  - 飲料製造
- ～上記分野における秤量や充填、搬送、包装、検査、組立、調剤、細胞培養作業など～



MOTOMAN-MH5BM

## 新製品

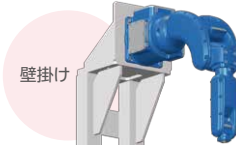
家電製品、自動車部品、携帯電話などの小型製品の塗装に最適なロボット

### 新型塗装ロボット MOTOMAN-MPX1150 を発売

家電製品や自動車の樹脂成形部品、携帯電話やパソコンの金属部品など、さまざまな小型製品の塗装に最適なロボットを発売しました。

部品単体の塗装、網塗り、スピンドル塗装など、お客様の生産スタイルに合わせた塗装が可能で、生産ラインのコンパクト化とコスト低減に貢献します。

生産ラインに合わせて  
選べる3つの設置方式



MOTOMAN-MPX1150

#### 主な用途

- ～小型製品の塗装～
- 家電製品全般
  - 携帯電話
  - パソコン
  - 自動車樹脂部品 など

## セグメント別の概況

## ■システムエンジニアリング

## 世界に誇る安川電機のシステム技術

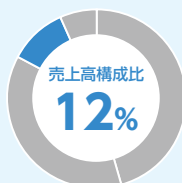
鉄鋼・水処理プラントなどにおいて当社は高度なシステム技術と高品質な製品で最適なソリューションを提供し、快適な暮らしと豊かな町づくりに貢献しています。また、環境・エネルギー分野においては、省エネ・創エネ技術を応用し、大型風力発電関連ビジネスを展開するなど、クリーンパワー事業に参入しています。



永久磁石式発電機 高速タイプ



高圧マトリクスコンバータ



## 事業の業績

鉄鋼プラントシステム・社会システム分野は、設備の更新ニーズを的確に捉え収益性が改善しました。環境・エネルギー分野は、欧州・中国を中心に大型風力発電関連の売上が伸張しました。また、バルチラノルウェー社の船舶用ドライブ製品に関する開発および製造部門を買収し、事業領域を拡大しました。以上により、前期比で売上高は増加、営業利益も大幅に改善し、黒字化したしました。

売上高

481億97百万円

前期比 11.9%増

営業利益

8億92百万円

## 主要製品

- 鉄鋼プラント用電気システム
- 上下水道用電気システム
- 各種産業用電気システム
- 高圧インバータ
- 高圧マトリクスコンバータ
- 産業用モータ・発電機
- 風力発電用コンバータ・発電機
- 小水力発電用発電機
- 電力用配電機器
- 風力発電システム
- 太陽光発電システム
- 船舶用システム
- エネルギー関連システム

## トピックス

「2025年ビジョン」で掲げる「Clean Power 事業領域」における船舶システム事業の強化を図る

## バルチラ社グループ 船舶用ドライブ製品の開発および製造部門の取得

当社連結子会社であるスイッチ社(本社:フィンランド)を通じ、世界トップクラスの船舶用エンジン機器メーカーバルチラ社(本社:フィンランド)グループであるバルチラノルウェー社の船舶用ドライブ製品の開発および製造部門を取得しました。

## 取得の狙い

フェリーやクルーズ船などの、船舶用電気推進システムに関する豊富な経験と実績を生かした電機品の提供を受けることで、当社製品ラインアップを拡充させ、市場ニーズに合った提案力の強化を図ります。

## バルチラノルウェー社の概要

- 会社名：Wärtsilä Norway AS Corporation
- 所在地：ノルウェー ホルダラン ボムロ市

## 次世代生産工場「ソリューションファクトリー（仮称）」の新設を決定

埼玉県の入間事業所内に、IoTやAI（人工知能）を活用した次世代生産工場の新設を決定しました。福利厚生エリアの再整備や緑化事業も予定しており、地域社会により深く根ざした企業になるように努めていきます。

### 新設の狙い

最新の自動化技術・設備、そして当社が持つ技術・製品を結集。Σ-7シリーズの増産対応と中期経営計画「Dash 25」で掲げている安川版インダストリ4.0の実証を「生産面」と「製品面」という2つの側面から進めていきます。

#### 生産面

・自社の多様なFA機器をインターネットに接続して制御するIoT技術やAI（人工知能）などの技術を活用した部品調達の自動化や生産ラインの一時的なトラブルからの自動復旧などを実現

#### 製品面

・自動化技術を含む生産モデル自体をシステム製品としてお客様に提供

### 工場の概要

- **名称**：ソリューションファクトリー（仮称）
- **所在地**：埼玉県入間市上藤沢480番地
- **敷地面積**：延床面積:6,400m<sup>2</sup> (3,200m<sup>2</sup>×2階建)
- **施設概要**：Σ-7シリーズ（サーボモータ・サーボアンプ）の製造安川版インダストリ4.0のコンセプトの実証
- **工場稼働予定**：2018年度



## 欧州・スロベニアにおける産業用ロボットの子会社を設立

産業用ロボットの新たな生産拠点として、福岡県北九州市と中間市、中国江蘇省の生産子会社に加え、スロベニアにロボット生産子会社を設立しました。欧州のロボット需要拡大に対応します。

### 設立の狙い

今後のロボット市場は、その適用範囲を拡大させ、さらに大きく成長する見込みです。この市場成長に伴う需要の増加に対応できる生産能力を拡大させると同時に、お客様への、よりスピーディーな製品供給を目的とし、顧客ニーズの高い欧州地域に新たな生産拠点を設立します。

### 新生産拠点の概要

- **名称**：YASKAWA Europe Robotics d.o.o.
- **所在地**：スロベニア
- **資本金**：21,000,000 ユーロ（約24 億円）
- **事業内容**：産業用ロボット（制御装置含む）の開発、製造
- **従業員数**：約170名（2020年予定）
- **工場稼働予定**：2018年度

## 安川電機(瀋陽)有限公司に第3工場の増設を決定

急速に拡大する中国市場でのサーボモータ、サーボアンプの需要に応えるため、現地生産子会社である安川電機(瀋陽)有限公司において、新たに第3工場を増設します。

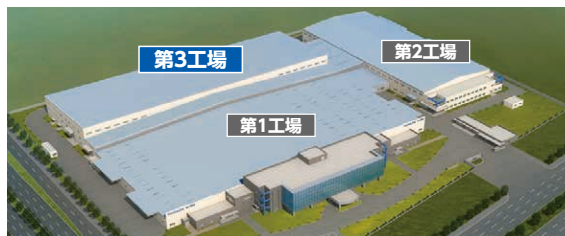
### 第3工場増設の目的

中国では産業構造の高度化および労働人口の減少、人件費の高騰等により、自動化・ロボット化への投資が加速しています。また、工作機械や製造装置、産業用ロボットなどの需要が拡大する中で、現地での製品開発が進んでいます。

このような中、自動化機器の主要コンポーネントであるサーボモータ・サーボアンプは、今後も更なる需要拡大が見込まれていることから、新たに第3工場の増設を決定いたしました。この工場では「見える化」をコンセプトとした最新の生産管理システムを導入し、生産状況のリアルタイム管理を実現します。また、埼玉県入間市のマザー工場と連携したグローバルな生産情報を共有できる体制を確立していきます。

### 瀋陽工場の施設概要

- 所在地：中華人民共和国遼寧省
- 生産機種：サーボモータ、サーボアンプ等
- 第3工場概要：■ 延床面積 [14,000㎡]  
■ 工場稼働予定[2018年度]



第3工場完成予想図

## 新規事業創出とコア事業領域拡大を加速させるベンチャー投資活動を本格化

長期経営計画「2025年ビジョン」達成に向け、新規事業創出およびコア事業領域拡大の加速を目的としたベンチャー投資活動を本格化。投資規模は2016年度～2018年度の3年間で20億円を予定しています。

### 背景と目的

近年ではオープンイノベーション\*の社会的な浸透を背景に、短期間で実用化が期待できる先端技術やアプリケーションを保有する国内外のベンチャー企業が数多く現れています。高い技術力に加え当社より速い開発力をもつ、これらのベンチャー企業に本格的な資本投資をしていくことで、「2025年ビジョン」で掲げる「コア技術の進化とオープンイノベーションの融合」の実現をスピードアップさせ、社会に新たな価値を提供します。

### ベンチャー投資活動の概要

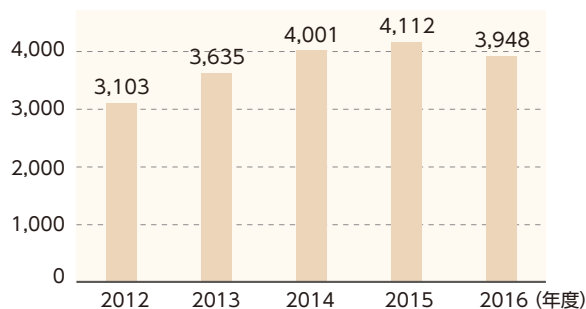
IoTやAI分野をはじめ「2025年ビジョン」の重点分野である「メカトロニクス」「クリーンパワー」「ヒューマートロニクス」における事業シナジーが見込める国内外のベンチャー企業を投資対象とし、スピーディな投資判断を行う体制を構築しました。

具体的には、FAネットワーク、次世代ロボットアプリケーション、蓄電技術、無線/センサー技術や次世代半導体技術等に対する機動的な投資を行い、要素技術開発や品質向上、量産技術のスピーディな実現に向け連携するほか、必要に応じ販売面・人材面でのサポートも行いながら、当社の資源を最大限活用します。

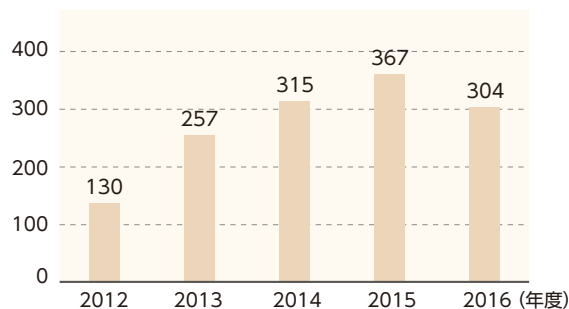
\*企業の内部と外部のアイデアを組み合わせ、革新的で新しい価値を作り出していく考え方。

## 業績の推移 (連結)

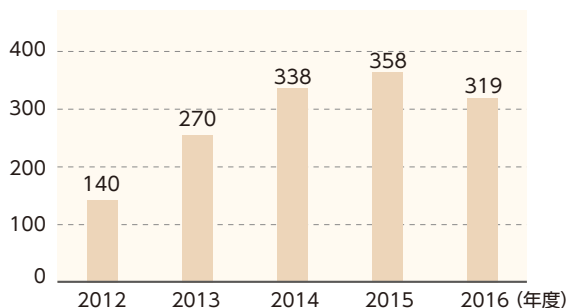
## ● 売上高 (単位:億円)



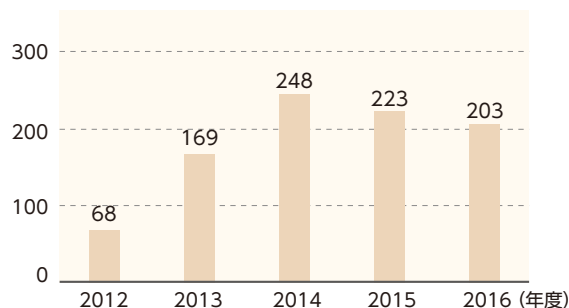
## ● 営業利益 (単位:億円)



## ● 経常利益 (単位:億円)



## ● 当期純利益 (単位:億円)



## ● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

自2016年3月21日 至2017年3月20日			
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,752	現金及び現金同等物の増減額	△ 2,198
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,936	現金及び現金同等物の期首残高	31,656
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,453	非連合子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 561	現金及び現金同等物の期末残高	29,735

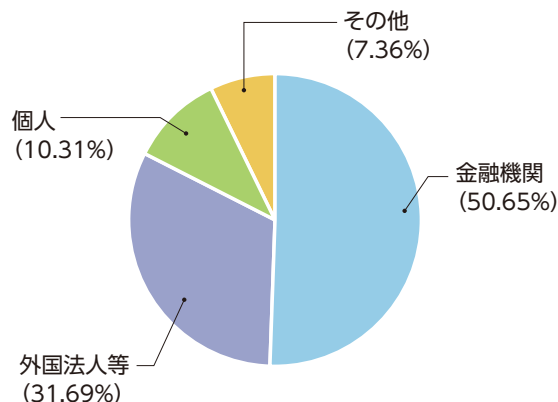
## 株式の状況 (2017年3月20日現在)

発行可能株式総数 …………… 506,000 千株  
 発行済株式の総数 …………… 266,690 千株  
 資本金 …………… 305億62百万円  
 株主数 …………… 28,526名

### ● 配当金情報

第101期(自2016年3月21日 至2017年3月20日)配当について		
中間配当	1株につき	10円
期末配当	1株につき	10円
年間	1株につき	20円

### ● 所有者別株式分布状況



## ■ 決算期変更のお知らせ

当社グループが今後もグローバル企業として着実な成長を続けていくにあたり、経営情報の適時・的確な開示による更なる経営の透明性の向上を図ることを目的として、海外連結子会社を含むグループ全体の決算期(事業年度の末日)を2月末日に統一いたします。

なお、決算期変更の経過期間となる第102期(2017年度)は、2017年3月21日から2018年2月28日までとなる予定です。

### 決算期変更の内容

従来	毎年 3月20日
変更後	毎年 2月末日

### 2017年度の会計期間(四半期ごと)

2017年度			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3/21~6/20	6/21~9/20	9/21~12/20	12/21~2/28

# 会社の概要

商号	株式会社安川電機	
英文社名	YASKAWA Electric Corporation	
創立	1915年7月16日	
従業員 (2017年3月20日現在)	14,632名(連結)※臨時従業員含む 2,741名(単独)	
取締役	取締役 (監査等委員である取締役を除く)	代表取締役会長 津田 純 嗣 代表取締役社長 小笠原 浩 代表取締役専務執行役員 村上 周二 取締役常務執行役員 南 善 勝 取締役常務執行役員 高 宮 浩 一 取締役執行役員 中 山 裕 二
	監査等委員である取締役	取締役監査等委員(常勤) 小 田 昌 彦 取締役監査等委員(常勤) 野 田 幸之輔 社外取締役監査等委員 秋 田 芳 樹 社外取締役監査等委員 辰 巳 和 正 社外取締役監査等委員 坂 根 淳 一
	執行役員	常務執行役員 扇 博 幸 執行役員 善 家 充 彦 執行役員 小 川 昌 寛 執行役員 生 山 武 史 執行役員 今 福 正 教 執行役員 熊 谷 彰 執行役員 Manfred Stern 執行役員 Michael Stephen Knappek 執行役員 森 川 泰 彦 執行役員 中 野 純 一
事業所	本 社 〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号 東 京 支 社 〒105-6891 東京都港区海岸一丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー 中 部 支 店 〒470-0217 みよし市根浦町二丁目3番地1 大 阪 支 店 〒530-0003 大阪市北区堂島二丁目4番27号 新藤田ビル 九 州 支 店 〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目6番8号 天神ツインビル 工 場 等 八幡西事業所・行橋事業所・入間事業所・中間事業所	

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで(2018年度より)〈注〉
定時株主総会開催月/配当金受領株主確定日	5月/毎年2月末日および8月31日(2018年度より)〈注〉
公告方法	電子公告( <a href="http://www.yaskawa.co.jp/ir/">http://www.yaskawa.co.jp/ir/</a> )
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

〈注〉当社は、2017年6月15日開催の第101回定時株主総会において「定款一部変更の件」を決議し、決算期を3月20日から2月末日に変更しました。決算期変更の経過期間となる第102期(2017年度)の事業年度は、2017年3月21日から2018年2月28日までとなり、配当金受領株主確定日は、2017年9月20日および2018年2月28日となります。

## ■未払い配当金のお支払い

みずほ信託銀行・みずほ銀行の本店および全国各支店にてお支払いいたします。  
※みずほ証券の本店および全国各支店においても、取次ぎをいたします。

## ■マイナンバーのお届出(市区町村から通知されたマイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます)

証券会社に口座をお持ちの株主さま 口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

証券会社に口座をお持ちでない株主さま(特別口座に記録されている株主さま) 下記連絡先にお問い合わせください。

●みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-84-0178(マイナンバー)

## ■住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法のご指定、確定申告、相続に伴う手続き等

証券会社に口座をお持ちの株主さま 口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

証券会社に口座をお持ちでない株主さま(特別口座に記録されている株主さま) 下記連絡先にお問い合わせください。

●みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324

## ■お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部



**0120-288-324**

## オフィシャルサイトのご案内

<https://www.yaskawa.co.jp/>

最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。

安川電機

検索



QRコード

株主・投資家情報をクリック



さまざまな株主情報や  
YASKAWAレポート  
などをご覧いただけます



YASKAWAレポート



QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

**YASKAWA**  
株式会社 安川電機

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています

**UD**  
FONT